

# 抗議

日本原子力研究開発機構

理事長 鈴木篤之 様

1995年12月8日、ナトリウム火災事故を起こして15年もの間停止していた「もんじゅ」が、多くの国民や学者の反対を押し切って、本年5月6日に運転再開されました。

再開されるや、私たちの心配した通り、ナトリウム漏えい検知器の誤警報など、連日のように警報が鳴り、900件を超えたと報道されています。あろうことか制御棒操作のミスまであり、8月26日、ついに重さ3.3トンの炉内中継装置を原子炉内に落下させてしまいました。

これだけの重量物が落下して無傷なはずがありません。詳細を調べるために10月にこれを引き上げようとしたところ、落下時の衝撃で変形したのか、今度は引っかかってあげることができなくなり、身動きが取れなくなってしまいました。

原子炉内は不透明な高温のナトリウムで満たされており、カメラで調査することもできず、容器の上ぶたを開けることもできません。落下した装置を炉内から撤去しなければ、原子炉を運転することはできません。11月17日、原子力機構は炉内中継装置を外枠のスリーブごといっしょに引き抜くと発表しました。しかし、これは到底実現不可能な難作業です。この先、また何年もの月日と、途方もない多額の税金を使うことでしょう。何とか運転させようとし、未練がましくいつまでも、この危険で無駄な政策にしがみつুকのは止めて下さい。運転を強行した場合、大惨事はまぬがれません。日本列島の大半に放射能の被害を及ぼしてしまいます。今こそ、これを天からの啓示と考え、もはやこの研究開発が到底無理であることを冷静に認めてください。「もんじゅ」から即刻撤退することを強く要請します。

2010年12月4日

’10年「もんじゅ」を廃炉へ！全国集会参加者一同